



TITLE:

Unto this Last ヲ讀ム(一)

AUTHOR(S):

河上, 肇

CITATION:

河上, 肇. Unto this Last ヲ讀ム(一). 經濟論叢 1917, 4(4): 467-474

ISSUE DATE:

1917-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127194>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

經濟論叢

第四卷 第四號

大正六年四月一日發行

論說

Unto this Lastヲ讀ム(一).....法學博士 河上 肇

官業問題ニ就キテ(三)完.....法學博士 神戸 正雄

我取引所擔保業務ト保險事業トノ差異.....法學士 小島 昌太郎

太閤檢地ノ研究.....法學士 牧野 新之助

參觀交代制度ノ經濟觀(二).....法學士 本庄 榮治郎

時事問題

支那ノ立國策ト其參戰問題.....法學博士 戸田 海市

對印爲替問題.....法學博士 神戸 正雄

雜錄

世界金融ノ中心トシテノ倫敦ノ地位.....法學博士 神戸 正雄

續市統計所小觀.....法學博士 財部 靜治

歐米ニ於ケル勞働組合ノ近況.....法學士 山本 美越乃

長野縣ノ蠶絲業.....法學士 河田 嗣郎

經濟論叢

第四卷 第四號 (通卷第二十二號) 大正六年四月發行

論 說

Unto this Last ナ讀ム (一)

河 上 肇

一

前々號ノ本誌ニすまゝとノ遺著ニ關スル一文ヲ載セシ余ハ、ソノすまゝとノ師匠ガらすきんデ
アツタト云フ因ミニ依リ、更ニ本號ニハらすきんノ經濟論集ニ關スル一文ヲ公ニシタイト思フ。
顧フニ自利心ノ自由ナル活動ヲ是認スルコトヲ以テ其根本思想ト爲セシ個人主義ノ經濟學ハ、
第十九世紀ノ半バ英國ニ於イテ全盛ノ極頂ニ達シ、爾來次第ニ信用ヲ失墜シテ今日ニ迫ンデ居ル
ガ、今コノ個人主義的經濟學ノ信用打破ニ就イテ最モ力アリシ英國ノ思想家ハ、みる、かゝら
る、らすきんノ三人デアル。而カモ第十九世紀ノ後半ニ於ケル英國思想界ノ大事業ノ一ハコノ舊
思想ノ打破ニ在リシガ故ニ、彼等三人ハ自ラ此時代ニ於ケル思想界ノ代表ノ人物デアル。嘗テえ

つけるどハ其らすきん論¹⁾中ニ曰ク

『専ラ論理的ニ自制克己ヲ警告シタリシじょーん・すてゆあーと・みる、享樂生活ヲ激烈ニ否認シタリシとます・かゝらいる、美ニ酔ヘル温キ心ノ自然ノ友タリ將タ人類ノ友タリシじょーん・らすきん、此等ノ人々ハびくとりあ王朝時代ニ於ケル英國社會批評家ノ三文星デアル。彼等ハ代表の人物トシテ、精神界ノ勇士トシテ、心讀スベキ幾多ノ新ナル神言ヲ彼等ノ國民ニ供給シタ。ゲニえまーそんノ言ヘルガ如ク、英國ノ國語ハ、彼等ノ名ニ依ツテ、新タニ其内容ヲ豊富ニスルヲ得タルモノト謂フベキデアル²⁾』

コノ三人者ヲ以テ第十九世紀ノ後半ニ於ケル英國思想界ノ代表者ト爲ス點ニ於イテハ、余モ全ク同感デアル。えつけるどハ更ニ述ベテ曰ク

『かゝらいるトみるハ早クヨリ獨逸ノ經濟學者間ニ知ラレテ居ル。……併シらすきんハ今日ニ至ルモ猶ホ我國ニ於イテハ全ク知ラレテ居ラス。浩瀚ナル叢書本ノ中ニモ、『國家學辭書』ノ中ニモ、えるすたーノ『國民經濟學辭書』ノ中ニモ、彼ニ關スル事項一モ無イ。又經濟學史ノ新刊書ヲ見ルモ或ハ全ク彼ノ名ヲ逸セルモノアリ、縱ト然ラザルモ纔ニ只彼ノ名ヲ錄スルニ止ル位ノコトデアル。而カモじょーん・らすきんハ彼ノ同志タルかゝらいるノ批評ニ依レバ、『真正ノ天才ニテ其思想ハ天來ノ閃光ノ如ク彼ノ心ニ生ジ來ツタモノデアル』。……彼ハ實ニ一個獨創ノ人物デア

1) Christian Eckert, John Ruskin. (Schmoller, Jahrbuch, 1902.)

2) a. a. O., S. 357.

ル。彼ニハ熱烈ナル血ト鋭敏ナル理解、高遠ナル理想ニ對スル絶對的ノ献身ト博愛的ノ善質トガ、驚クベキ工合ニ調和サレテ居ル。彼ハ美學者ト藝術批評家、社會批評家ト社會改良家、思想家ト詩人トヲ其一身ニ兼ネ備ヘタモノデアル。」³⁾

今ヨリ十數年前えつけるとハ斯ク考フルコトニ依ツテらすきん論一篇ヲ公ニシタ譯デアルガ、當時獨逸ニ於イテ彼ノ言ヒタリシ言葉ハ、其ノママ之ヲ今日ノ日本ニ當テ嵌メテモ差支ナイ。コレ余ガ偶々すまゝニ遺著ヲ讀ムノ一文ヲ公ニセシ因ミニ、廻リテ彼ガ師匠タルらすきんノ著書ニ就イテ是篇ヲ起ス所以デアル。

二

らすきんノ著作中最モ注意ス可キモノノ一ハ、一八六〇年彼ガ『コーンひる雜誌』ニ公ニシタモノデ、其後二ケ年後ノ一八六二年ニ之ヲ一冊子ニ纏メ Unto This Last ノ名ヲ冠シテ出版シタ論文デアル。抑々コノ一八六〇年ト云フ年ハ、歐米ノ天地ニ大事件ノ起ツタ年デアツテ、即チ此時伊太利ニ於イテハ王國ノ統一ガ成立シ、他方新大陸ニ於イテハ亞米利加南北戰爭ガ爆發シタノデアルガ、恰モ此年ハらすきんノ生涯ノ正ニ半バニ達シタ時デアルト同時ニ、彼ガ美學者タリ藝術批評家タリシ過去四十年ノ生活ヨリ脱シテ、將來更ニ四十年ニ亘ルベキ社會批評家乃至改良家トシテノ新生活ニ入リシ年デアル。而シテ其新生活ニ於ケル第一ノ產物ガコノ Unto This Last デアル。

3) a. a. O., S. 357-8.

ツテ、即チ余ノ茲ニ其一斑ヲ紹介セントスル所ノモノデアル。

此論文ハ最初公ニサレタ當時ハ、甚シク世人ノ反感ヲ買ツタモノデアル。二ヶ年後ニ之ヲ一冊子ニ纏メテ公ニスルヤ、らすきん自身ガ次ノ如ク言ツテ居ル。

『次ノ四論文ハ十八月前ニこーんひる雜誌ニ公ニサレタモノデアル。而シテ私ノ耳ニ入ツタ限リニ於イテハ、此等ノ論文ハ、之ニ接シタ讀者ノ大多數ニ依ツテ、恐ロシク非難サレタモノデアル』¹⁾。

猶一八七一年ニ『むねら・ぶるぐえりす』(一ニ『經濟四論』(註一)又ハ『經濟六論』(註二)ト題ス)ヲ出版スルヤ彼ハ其序ノ一節ニ復タ次ノ如ク述ベテ居ル。

『余ハ今ヨリ十一年前、一八六〇年ノ秋、經濟學者ノ謬想ニ因ツテ歐洲ノ民衆ノ上ニ如何ナル不幸ガ襲來セントシツツアルヤヲ十分ニ認メシガ故ニ、(之ヨリ以前早クヨリかゝらゐるノ己ニ認メ居タル如ク)、余ハ此等ノ謬想ト戦ハレガ爲、余ノ爲シ得ル最善ヲ盡サンコトヲ企テ、先ヅこーんひる雜誌ニ論文ノ續物ヲ寄稿シタ、サウシテ其カ後ニ Unto This Last ノ名ヲ以テ出版シタモノデアル。當時コノ雜誌ノ主筆ハ余ノ友人(註三)デアツタ、ソウシテ最初ノ三篇ヲ掲載スルコトヲ敢テシタノデアツタガ、當時之ニ對スル非難ハ實ニ喧シク、如何ナル編者モ到底耐エ能ハザリシ程度デアツタ。ソコデ彼ハ余ニ一書ヲ寄セ、經濟論ハ最早今一篇シカ雜誌ニ掲載

1) Unto This Last, Preface.

シ能ハザルコトヲ述ベ、且此ノ如キ申出ヲ爲スコトハ彼自身ニトツテハ非常ニ不愉快ナコトデアルガ、事情已ムヲ得ザレバトテ、余ニ向ツテ種々ノ言譯ヲシタノデアツタ。余ハ、彼ノ許諾ヲ得テ、最後ノ篇ヲバ他ノモノヨリ特ニ長ク書キ、且余ノ爲シ得ル限り露骨ナ結論ヲ其ニ加ヘタ、——ソウシテ今ソノマ、ノモノガ書物ニナツテ残ツテ居ル譯デアル。』

(註一) 今日 Munera Pulveris ノ名ヲ冠シテ殘サレアルらすきんノ論文ハ、最初四篇カラ成リ立ツテ居タ。サレバ當時雜誌ニ掲載サレタマ、ノ形ヲ重視シテ居ル Everyman's Library ノ叢書本ノ如キハ、之ニ題シテ Four Essays on Political Economy トシテアル。

(註二) 最初雜誌ニ公ニシタ時ハ四篇ニ分レテ居タノチ、之チ一冊子ニ纏メ Munera Pulveris トテ名ヲ出版シタ際ニハ全體ヲ六章ニ分ケカヘタ。ソレ故改訂本ヲ收メミラスキん全集 (The Works of John Ruskin, M. A. Thomas Y. Crowell & Company Publishers, New York.) ニハ Munera Pulveris, Six Essays on the Elements of Political Economy. トシテアル。

(註三) 茲ニらすきんガ余ノ友人ト言ヘルハさつかれー (Thackeray) ノコトデアル。さつかれーハ一八一一年ニ生レ一八六三年ニ死セシ文學者デ、こーんひる雜誌ノ主筆ニ爲ツタノハ一八六〇年一月ノコトデアル。

以上述ブル所ニ依ツテ見レバ、當時如何ニ此等ノ論文ガ一般讀者ノ反感ヲ招キシヤラ知ルニ足ル。而カモンハらすきん自身ノ考ニ依レバ the best, that is to say, the truest, rightest worded, and most serviceable things I have ever written (自分ノコンマテ書イタモノデハ最善ノモノデアツテ、即チ最モ眞實ナ、最モ正直ナ、又最モ有用ナモノデアル) ト云フノデアル。否ナ啻ニ著者ノミナ

ランヤ、世間ノ廣キ、當時非難ノ聲ノ露々タル間ニ混ツテ、之ニ對シ竊ニ感歎ノ聲ヲ放ツタモノガアル。其一人ハ彼ガ the friend and guide who has urged me to all chief labour ト呼ンデ其著『むねらぶるがえりす』ヲ公献シタ所ノ彼ノ師匠とます・かゝらいるデアル。一八六九年らすきんガ Queen of the Air ヲ公ニスルヤ、彼ニ書ヲ寄セテ

Last week I got *Yr Queen of the Air*, and read it. *Enga, Enga*. No such Book have I met with for long years past. The one soul now in the world who seems to feel as I do on the highest matters, and speaks *myr ans den Heren*, exactly what I wanted to hear!

(昨週余ハ君ノ『へいん・が・や・えち』ヲ落手シテ、且其ヲ讀ンダ。實ニウマク出來テ居ル。斯カル書ハ余ガ過去長年ノ間余ノ手ニセザリシ所デアル。最高ノ事柄ニ關シ余ガ感ズルガ如クニ感じ、正ニ余ノ聞カントスル所ノモノナ心ヨリシテ余ニ語リ吳ル、所ノ一個ノ靈魂ガ今此世界ニ居ル。……………)

ト言ヒ、又一八七一年彼ガ *Fors Clavigera* ヲ出シ始ムルヤ、又直ニ彼ニ一書ヲ寄セテ

This *Fors Clavigera*, letter 5th, which I have just finished reading, is incomparable; a quasi-sacred consolation to me, which almost brings tears into my eyes! Every word of it is as if spoken, not out of my poor heart only, but out of the eternal skies; words winged with Elymprean wisdom, piercing as lightning,—and which I really do not remember to have heard the like of. ²

(『ふをるす・くらぐいげら』ノ書簡第五ナ今讀ンダ所デアルガ、コハ余ニトリ宛ガラ神ノ慰藉デアツテ、殆ド余ガ眼ニ涙ヲ催サンバカリデアツタ。其ノ一タノ言葉ハ、恰モ余自身ノ憐レナル心ノ底カラ流れ出タモノ、如クニ感ゼラレタ。否ナ寧ロ永初ノ空ヨリ響キ渡レルモノノ如クニ語ラレテアル。最高天上ノ智慧ヲ翼トシ、電光ノ如クニ通徹スル所ノ言葉。——此ノ如キ言葉ハ

1) Collingwood, John Ruskin, vol. 11, p. 92.
2) Collingwood, *Ibid*, p. 126.

實ニ余ニトツテハ曾テ聞キタル覺エナキモノデアアル。

ト言ヒタリシカノとます・かゝらゐるハ、 Unto This Last ノ公ニサレシ折モ一書ヲ與ヘテ著書ヲ獎勵シ慰藉スルヲ忘ラザリシモノデアアル。其文ニイフ、

Ich las Ihre Artikel mit Wollust mit Jauchzen und oftmals mit hellem Gelächter und Bravissimo-Rufen. Ein solches Ding plötzlich an einem Tag in eine halbe Million vernagelter britischer Hirnkasten geschleudert, wird viel Gutes thun. (余ハ君ノ論文ヲハ愉快ト歡喜トナ以テ又時トシテハ高笑シ時トシテハ快哉ヲ叫ビツ讀ムダ。此ノ如キモノナバ一朝突如トシテ五十萬ノ愚鈍ナル英國ノ讀者ノ頭腦ノ中ニ投ゲ込ムト云フコトハ、色々ノ好結果ヲ齎スニ相違ナイ。)

『こゝんひる雜誌』ノ數十萬ノ讀者ヨリ甚シキ反感ヲ以テ排斥サレシラスキンモ、恐ラクハ此ノ如キ知己ヲ有スルコトニ於イテ其ノ最上ノ慰藉ヲ見出シタデ有ラウ。併シ此等ノ論文ノ價值ヲ認メタモノハ、天下ノ廣キ、必ズシモかゝらゐる一人デハ無カッタ。現ニふれでりつく・はりそん(註)ノ如キモ、其著『じよん・らすきん』³⁾ニ於イテ I thought it then, as I think it still, 'the most serviceable thing' that Ruskin ever gave the world (余ハ今日考ヘテ居ルガ如ク、其ノ出版ノ當時ニモ、此書ヲ以テラスキンガ曾テ世界ニ供給セルモノノ中「最モ有用ナ物」ダト考ヘタ)ト言ツテ居ル。又救世軍ノぶーす大將ガ其事業ニ着手シタ當時、國內殖民事業ノ首唱者タルみるすニ向ツテ、自分ハ經濟學ニ關シテ全ク無智デアルカラ何カ善イ書物ヲ教ヘテ貰ヒタイト言ツテ尋キタ時、みるすハ彼ニ獎ムルニ此ノ Unto This Last ヲ以テシタト云フコトデアアル。⁵⁾ らすきんモ亦必ズシモ

- 3) Unto This Last ノ獨譯 Diesem Letzten (Leipzig, 1902.) ノ卷頭ニ附セラレタル W. Schölermann ノ序文 (S. 6.) ニ引ク所。
- 4) Frederick Harrison, John Ruskin, 1907, p. 92.
- 5) Collingwood, *Ibid.*, vol. II, p. 26.

知己ナキヲ憾ミズシテ可ナリト言フベシ。今ヤ此書ノ公刊ヲ距ルコト五十餘年、時代ヲ隔ツルコト半世紀以上ナレドモ、余モ亦之ヲ一讀シテ『余ノ憐レナル心』ニモ多少ノ共鳴ヲ感ジ得ルノ幸福ヲ感謝スルノ餘リ、茲ニ此一篇ノ文ヲ刎ス。請フ、余ヲシテ此書中ニ現ハレタル彼ガ思想ノ一斑ヲ略説スル所アラシメヨ。

(註) はりそんハ哲學者トシテ名アリ、著書多ク、一九一一年ニハ Autobiographic Memoir ナ著ヘセリ。彼ハ Unto This Last ノ公ニサレシ時、之ニ對シテ多大ノ興味ヲ感ジ、其折初メテ、らすきんヲ訪問セシ人デアアル。